

令和3年6月議会 宇都宮市議会定例会報告

一般質問
一問一答方式

中塚英範

質問項目

- 1 適切な情報伝達・開示がなされなかったLRT整備事業問題とガバナンスの在り方について
- 2 新型コロナウイルス感染症対策について
 - 1) 新型コロナウイルスワクチン接種について
 - 2) 事業者支援と経済対策について
 - 3) 自主休校児童生徒の対応について
- 3 生活困窮者支援について
 - 1) 女性の貧困と生理の貧困について
 - 2) 必要とする支援が必要な時期に届く制度について
 - 3) 生活困窮者支援団体との連携・支援について



中塚英範市議
録画配信HPのQRコード

- 4 性暴力被害から子どもを守る取組について
- 5 LGBTQの人権を認める施策と理解促進について
- 6 敬老会について

質問及び答弁(抜粋)

3 生活困窮者支援について

1) 女性の貧困と生理の貧困について

Q コロナ禍により、女性の失業や自殺者数が男性に比べ大幅に増えている。深刻な状況にある女性が増加している中、女性の自殺防止や経済的・精神的支援は急務と考えるが、女性の支援にどのように取り組んでいくのか伺う。

A 【市長答弁】不安を抱えた女性の孤立・潜在化を防ぐため、「宇都宮市つながりサポート女性支援事業」を女性支援を行うNPOなどと連携して実施し、生理用品の提供をきっかけに相談・支援につなげるとともに、NPOなどの知見とネットワークを生かした相談体制の充実を図っていく。

Q 経済的な理由で生理用品の購入が困難な状況にある女性が一定の割合存在する「生理の貧

困」の問題が顕在化している。市は、女性相談所と小中学校の保健室等に生理用品を配置し、相談とセットで配布するとしているが、児童・生徒の中には、恥ずかしいという感情や、ネグレクトで親を頼れなかったり、父子家庭で男親にお願いしにくい等のケースもあり、「家庭状況を知られたくない」などの思いから言い出せず、支援に繋がらない恐れがある。生理用品を小中学校のトイレに配置するとともに、「生理をはじめとした体の事や家庭の相談に乗るよ」という旨のメッセージと一緒に置くことで、必要とする児童生徒に必ず届き、ゆくゆく相談・支援に繋がれるようにすべきと考えるが見解を伺う。

A 【市長答弁】支援を必要とする児童生徒が安心して相談できる体制づくりのため、まずは保健室に生理用品を常備し、メッセージを添えた生理用品の小中学校のトイレへの配置についても、設置方法や管理の仕方などを検討し、適切な支援につなげる。

Q 【再質問】市長答弁を確認するが、小中学校トイレに生理用品を置くことを前提に検討すると捉えていいのか。

A 【教育長答弁】新たに生理用品を小中学校トイレに置くことになるので、効果的な置き方等について置くことを前提に前向きに検討する。

一般質問
一問一答方式

宇梶 哲

質問項目

- 1 新型コロナウイルス感染症対策について
- 2 交通未来都市の実現に向けた取組について
 - 1) 自転車のまち推進について
 - 2) 自転車利用に関するルール・マニュアルの周知啓発について
 - 3) 陽南通りの道路整備計画について
- 3 安全・安心の未来都市の実現に向けた取組について
- 4 カスタマーハラスメント対策について
- 5 陽南プールの整備計画について
- 6 ヤングケアラーについて
 - 1) 本市独自の実態調査について
 - 2) 早期に発見する仕組みについて
 - 3) 自覚できる仕組みの構築について
 - 4) 相談できる環境の整備について



宇梶 哲市議
録画配信HPのQRコード

7 投票率の向上について

質問及び答弁(抜粋)

6 ヤングケアラーについて

1) 本市独自の実態調査について

Q ヤングケアラーとは、家族にケアを必要とする人がいるために、家事や家族の世話をし、時にはその成長の度合いに見合わない重い責任を負って、家族のケアを行っている、18歳未満の事である。ヤングケアラーは多く存在し家族のケアを担うケースの認識自体、十分に広まったとは言い難く、問題は見えないケアラーと言われていることから、まずは、それをどのように発見するかが、支援の始まりと考える。行政が支援体制を確立していくには、まずヤングケアラーがどれくらいの数、存在しているのか把握する必要があり、国も自治体による地方の実態調査を推進している。子どもたち、周りの人たちがヤングケアラーにきづく手段としても実態調査は必要であると考えことから、本市においても、早期に独自の実態調査を行って頂きたいと考えるが、見解を伺う。

A 【市長答弁】全小中学校の児童生徒に対し、ヤングケアラーを視点の一つとして、学級担任との面談による教育相談を年2回以上実施し実態把握に努めているところであり、今後も、引き続き、

学校と連携し実態の調査をしていく。

3) 自覚できる仕組みの構築について

Q ヤングケアラー自身が「自分はヤングケアラーだと思っても良い」という土壌を作ることも大切であり、家族を気遣ってケアラーに関わっている事実を認めて本人が自覚する仕組みをさらに構築する必要があると考えるが、見解を伺う。

A 【市長答弁】学校において、啓発用のチラシを配布するなど、あらゆる機会を捉え当事者がヤングケアラーであることを自覚できるよう周知に努めていく。

4) 相談できる環境の整備について

Q 子供にとって役所などの公的機関への相談は心理的なハードルが高いことから、子ども食堂や同じ問題を抱える人たちで支え合うピアサポートなどや、ヤングケアラー状態にあることを、気軽に相談できる環境を整備する必要があると考えるが、見解を伺う。

A 【市長答弁】教職員に対し、ヤングケアラーの理解促進を図り、相談者一人一人の状況に応じた支援を行う青少年自立支援センターなどの、各種相談窓口の周知を図り、子どもが気軽に相談しやすい環境づくりに取り組んでいく。

一般質問
一問一答方式

高橋英樹

質問項目

- 1 市長の政治姿勢について
 - 1) LRT整備事業に関すること
 - 2) 中央卸売市場に関すること
 - 3) ゆいの杜地区の交通安全対策について
- 2 環境行政について
- 3 森林火災対策と文化財保護について



高橋英樹市議
録画配信HPのQRコード

4 子どもの家の指定管理について

5 図書館運営について

質問及び答弁(抜粋)

1 市長の政治姿勢について

3) ゆいの杜地区の交通安全対策について

Q ゆいの杜地区の生活道路の安全性向上に向けて、歩行者や自転車の通行空間の確保や自動車の速度抑制効果が期待できる路側帯の設置について、地域の声を踏まえ、通学路合同点検などで検討すべきと考えるが、見解を伺う。

A 【教育長答弁】ゆいの杜地区は、4月に開校したゆいの杜小学校の周辺に住宅が立ち並んでおり、学校を中心とした約500mの範囲に設定しているスクールゾーン内に約9割の児童が居住しているため、通学路の交通安全対策を進めていくことは、児童のみならず地域住民の交通安全対策にもつなが

るものとする。

ゆいの杜地区では、各種店舗の出店等により生活の利便性が高まるにつれて地域内の交通量が増加しており、区画線の更新や交差点へのカーブミラーの設置など交通安全対策を進めてきた。また、ゆいの杜小学校の開校に伴い、学校やPTA、地域団体等と連携を図り、スクールゾーンの設定や路面標示の設置などにより、ドライバーへの注意喚起を促してきたところである。

ゆいの杜地区の通学路については、開校後間もないことから、引き続き、通学路の交通状況に応じた安全対策を進めることが必要と考えており、今後、「宇都宮市交通安全プログラム」に基づき、地域住民の声を踏まえながら、対策が必要な箇所を抽出した上で、県警や道路管理者等を交えた「通学路合同点検」を実施し、路側帯の設置を含めた効果的な対策を検討するなど、学校や地域等と連携を図りながら、さらなる交通安全の確保に努めていく。

私たちは皆様の声を市政に活かします!!

次回 令和3年9月議会質問予定者
今井恭男・福田智恵・小平美智雄・郷間康久